



# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

第93号

発行日  
令和5年9月1日

◇ 目 次 ◇

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| P-2: 公募観察会(6/3)下見 鷹ノ巣高砲台 | P-9: 包ヶ浦海岸清掃作業(午前)・焼肉懇親会 |
| P-2: 公募観察会①植物・歴史 鷹ノ巣高砲台  | P-12: 公募観察会②干潟観察(鳥居周辺海浜) |
| P-6: 樹木名板維持管理作業          | P-14: 嚴島神社前海浜清掃作業        |
| P-8: 環境省研修会 歴史(宮島のシカ)    | P-15: 投稿 ・俳句             |
| P-9: 自主観察会(3)干潟観察公募観察会下見 | 編集後記                     |



7月30日に「宮島の干潟観察とアサリ掘り体験」が行われました。定員を上回る応募があり、大変盛況でした。参加されたご家族の皆さんは、とても喜んでおられました。会員スタッフみんなで観察会を支えている手作り感がお客様にしっかり伝わっていたように感じています。

( 文:元広 撮影:河野 )

**公募観察会(6/3)下見****鷹ノ巣高砲台**

日時：5月27日 9:30~13:00

天候：晴れ

行事推進委員：中道 増田 村上(光)

参加者：岩崎 小川 北野 小林(颯) 末原  
二神 穂井田 増田 森 山本(昌)  
横路 以上 11名

6月3日(土)の公募観察会①鷹ノ巣高砲台跡の下見を実施。

コースは車道を自然観察しながら歩く。当日、リーダーの山本(昌)会員と北野会員は入念に樹木等をチェックしながら歩く。トキワガキなど思っていた以上に確認できた。下見を行った成果だろう。頂上で行事推進員の増田会員より鷹ノ巣高砲台の概略の説明を受ける。帰路は登山道を下る。急な坂道などがあり、滑りやすいコースなので下山後のミーティングで皆と協議した結果、車道を往復することにしました。

( 文：小林(颯) )

**公募観察会①****植物・歴史 鷹ノ巣高砲台**

日時：6月3日(土) 9:00~14:35

天候：晴れ

行事推進委員：中道 増田 村上(光)

参加者：岩崎 小川 北野 河野 小林(颯)  
小林(み) 佐渡 末原 兎谷 中道  
穂井田 増田 舛田 森 山本(昌)  
横路 以上 16名

環境省：内山自然保護官、大高下 AR

爽やかに晴れ渡った青空の朝9時に包ヶ浦公園に集合。

環境省の内山保護官、宮島地区パークボランティア末原会長の挨拶の後、北野会員、山本(昌)会員のリーダーのもと2班に分かれて包ヶ浦公園を出発した。



2週間前に「G7広島サミット」で来日した各国の首脳が訪れた「宮島」。その際に設けられていた臨時ヘリポートの片付けが進むグラウンド広場を横に見ながら初夏の観察会が始まった。

高砲台入り口の分岐点まではジグザグに登る舗装された自動車道である。交通量は少ないが急に会う自動車にも注意が必要だ。

多数のつぼ型の花が横に整列したように並んだネジキの花は白色。色あざやかな春の花々の季節が過ぎてこの時季は白色の花が目立つようだ。

木々の枝先に絡み付いているプロペラのように捻じれた花卉のテイカカズラの白い花は時季をやや過ぎて黄色をおびている。

宮島での特徴的な樹木のトキワガキやタマミズキ、カンコノキなどの葉や樹形や幹の特徴の説明を聞きながら進む。

道のカーブ地点から包ヶ浦の遠景や江田島の島々が木の間越しに見える。



日差しが強くなって水分補給の小休憩をとる。付近の木の枝からサンカクヅルの蔓が下がっている。葡萄状の小さな花の蕾が付いている。別名を「行者の水」と言う。乾燥した土壌でも逞しく水を蓄えるのであろうか。

11時に高砲台入り口分岐点に到着。

トキワガキの大樹が間近かで観察できる。

ここからは歩道を高砲台跡へと落ち葉を踏みながら進む。タイミンタチバナが多く見られる。

少し開けた広場の片隅に「海軍省」と刻んだ石柱が有る。宮島に残る戦争遺跡の存在を感じる。近くに、肩を怒らせ大きく手を広げたようなクロバイの大樹が有る。一般の人々の立入りが厳しく制限されていた時代に、包山を背にして侵入者を拒むがごとくの姿だったのでと感ずるのは私だけでしょうか。

11時40分に鷹ノ巣高砲台・方位観測所跡に到着した。



増田会員から遺跡の説明を聞いた。

この鷹ノ巣高砲台の設置は明治31年2月。中国大陸の北東部への進出を狙う日本とロシアと西洋各国との確執の時代。軍都と言われた広島と軍港の呉の防御のために、宮島との対岸の三高山をはじめ7箇所に砲台を築いていた。その後の戦艦の大型化により、この砲台は実戦に使用される事無く大正15年に廃止された。鷹ノ巣高砲台は広く瀬戸内海を見渡せる要衝であった。穏やかに広がる瀬戸内の海を眺めて平和な時代の幸せを思う。

昼食の後、中道会員から付近の設備の跡の説明を受ける。28センチ榴弾砲2門の台座跡が3ヶ所。周りを取り囲む石積み技術の確かさや砲弾置場のレンガの質の高さが参加者の目を引く。



炊事場跡の近くに井戸が残っている。蓋を取って覗くとかなり深い。底の水面が光って見える。参加者の数名がロープで測ってみると、約11メートルであった。山頂近くでの水の確保の苦労が偲ばれる。

13時45分に帰途に着く。コースは往路と同じである。参加者で交流を深めながらの帰路となった。

途中で鳥の鳴声に空を見上げると、翼を広げたミサゴが大きく輪を描いて飛んでいる。近くに巣が有るようだ。

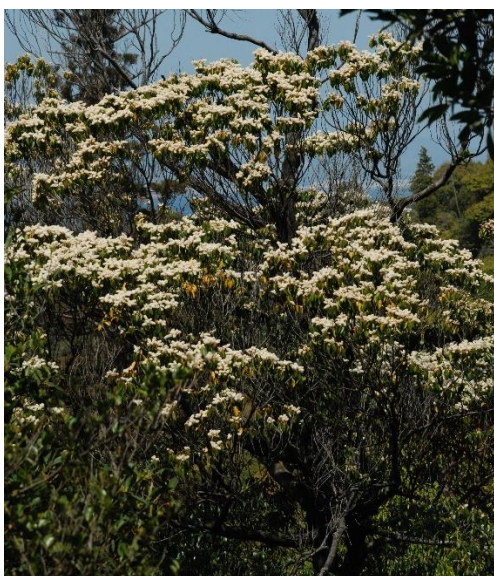
「鷹ノ巣」と言うこの地の名前。包ヶ浦を望むこの地の豊かな自然の番人を、あのクロバイの巨人に託したいものだ。

14時35分に包ヶ浦公園で無事に解散となった。



( 文：横路 写真：河野 )

(参考)



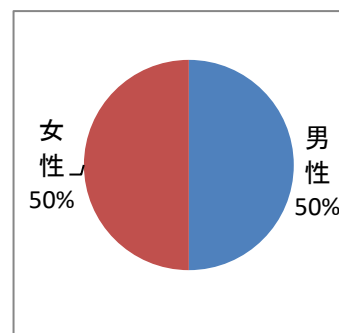
花をつけた時の「クロバイ」の姿  
( 2019.4.20 撮影：横路 )

#### ◇アンケート

- ・植物に興味
- ・たいへん楽しく1日を過ごさせてもらいました。(70代男性)
- ・自然に興味
- ・説明が良かった/大変満足
- ・今後案内があれば参加する。(70代男性)
- ・体を動かしたい。(70代男性)
- ・宮島に関することを色々知りたい
- ・ボランティアスタッフさんが多勢ついてくださり色々お話が聞けて良かった。  
/親切に分かり易く説明くださり、貴重な資料をいただきありがとうございます。

- ・今回初めての参加でしたが、とても有意義な観察会でした。次回も参加できればと思っております。(70代男性)
- ・植物に興味
- ・良かったです。(60代男性)
- ・歴史に興味
- ・詳しい説明で良かった/初めて知った内容で良かった。(50代男性)
- ・砲台の全体ガイド運用を見たかった
- ・ゆっくりと地形と草木を見られた。本当に学習的にやるか、面白くやるか考えるとこるもあり。(50代男性)
- ・身近な地域であった過去の出来事を知りたかった
- ・宮島での戦前、戦中のことが知れて良かった/テキスト等良い
- ・宮島のほかの場所についても観察会をしてほしい。(50代男性)
- ・宮島のことを何でも知りたい
- ・自然の中を歩くだけで、とても気持ち良かった/分かりやすく面白かった。(70代女性)
- ・宮島の自然と歴史の遺構を大事に残してほしい。自分でできることはしたいと思えます。
- ・歩きながら細やかに説明していただきました/帰ってからゆっくり資料を読みます/グループの方が細やかに協力されて進めてくださりありがとうございます。
- ・バードウォッチングもしてみたい。(70代女性)
- ・宮島に砲台があることを知らなかった。(60代女性)
- ・自然と歴史に興味がある
- ・ていねいな説明で分かりやすかった/良かったです。
- ・次回の案内があれば連絡が欲しいです。(50代女性)
- ・各種の専門的な知識を有した方の説明を聞きながらの実際に見て触れながらの体験ができてたいへん充実したものでした/皆様のご尽力に頭が下がります。ありがとうございます(50代女性)
- ・宮島棧橋の売店で数年前に「宮島パークボランティアの会」が作成された小冊子を購入し、持参しながら各コースを散策していました。偶然、その会主催の観察会があることを新聞で見つけ、すぐ申し込みました。植物の細密画(ボタニカルアート)を描いています。宮島の植物の四季折々の姿が観たくて描きたくて…。正しい名前の同定をしていただき、本当に勉強になりました。
- ・内容・テキストについて…案内して解説くださった方々が、それぞれの分野でとても詳しく、砲台に関しては図が分かり易く勉強になりました。植物の写真も花・実・葉の違い、名前の由来など記憶に残る工夫をありがとうございました。
- ・資料の図を見ながら、人々のご苦勞を思い描きました。実際に足を運んで観る…ということは、想像や書物で読むとは全く違う驚きがあります。「保存」の意味は、ソコにあるのだと尽々思いました。(60代女性)

\*後日メールで・・・宮島のパークボランティアの活動に心惹かれました。次回の会にもぜひ参加させて頂きたいのですが、募集要項などありましたらご連絡頂きたくお願い申し上げます。(60代女性)



参加者の性別

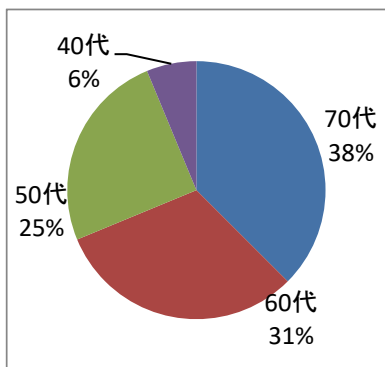
# 樹木名板維持管理作業

日時：6月17日（土）9:00～12:00

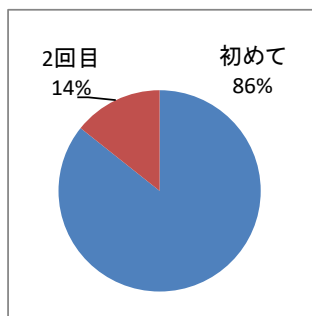
天候：晴れ

行事推進委員：佐藤 山本（加）

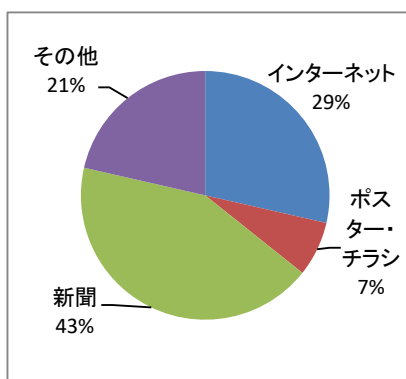
参加者：麻生 岩崎 河野 小林(颯) 末原 兎谷  
中道 穂井田 舛田 村上(慎) 村上(光)  
森 山本(昌) 吉賀 以上 14 名



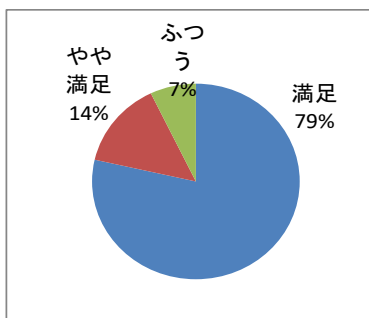
参加者の年代



観察会参加回数



行事を知ったのは



行事の感想

( まとめ 舛田 )

前々日は激しい雷雨、本日は梅雨の合間の晴天なれども、午後は厳しい暑さの予報です。

2004年（平成16年）以来継続中の遊歩道樹木名板点検作業に参加しました。

点検結果は、点検枚数約300枚、破損・逸散などで取換・補充したもの14枚、故意に破損したと思われるものはありません。

宮島には約700種以上の維管束植物が確認されています。宮島の植物により親しめるように約100種の植物を選び名板を取付けました。これが景観を壊すことがないように、遊歩道の清掃と植物の学習を兼ねて定期的に点検しています。

本日の参加者は14名。うぐいす歩道西進班とあせび歩道東進班の2班に分かれて点検し、藤の棚公園で合流する段取り。棧橋広場を9:00出発（筆者はあせび班）。

旧宮島ホテル跡（現・杜の宿）を左折、緩い長い階段を登りきるとあせび歩道。早速森林浴、フィトンチッドを気持ちよく浴びて進みます。名板を付けた樹木には声をかけ、様子尋ねます。ウリハダカエデには「今秋のもみじ予想はどう？」、カンコノキには「最近のシカやイノシシの食圧は如何か？」。また必要に応じて名板の汚れを拭き取り整頓します。

大聖院山門、もみじ歩道を経て、12:00に藤の棚公園到着、安全確認して解散した。

この1年宮島はコロナ禍、大鳥居修理そしてG7広島サミットで、街中の様子が大きく変わりました。軽食レストランも増えました。コンビニもできました。遊歩道に限らず街中ぶらりさんぽも楽しみです。

名板管理作業(西班)

名板管理作業(東班)



( 文 : 村上 ( 光 ) ・ 写真 : 河野 末原 )

# 環境省研修会 歴史(宮島のシカ)

日時：7月3日(土) 13:00~15:00

天候：曇り

行事推進委員：五石 森脇

場所：etto 宮島交流館

出席者：麻生 猪谷 岩崎 大西 小川 河野

小林(勗) 佐渡 末原 兎谷 中道 二神

穂井田 増田 舛田 松尾 松田 三戸

村上(慎) 森 山本(加) 山本(昌) 横路

以上 23 名

環境省：山脇自然保護官、大高下 AR

廿日市市役所：11 名

講演「シカと人の関係の歴史—宮島の場合と奈良の場合」

講師：奈良県立大学地域創造学部教授

水谷 知生 氏

せとうち観光専門職短期大学

平 侑子 氏

今回は、シカと人間の関係の歴史を、宮島と奈良を比較しながら、ご講演いただきました。

配布スライドだけでも 48 枚、質疑応答等には、水谷先生の共同研究者、平先生も加わり、とても豊富な内容で貴重な研鑽の機会となりました。

具体的な内容よりも、先に、驚いたのは、その地域の、その時代の「シカを主題に、かつての状況を示した文献は、ほぼない」ので、絵図や紀行文の中から、宮島や奈良について書かれた資料を探して、さらに、シカに関する部分を絞り込み、書かれている内容を検討したり、場所等を地図にプロットする等の分析から「シカと人の関係」を時代ごとに明らかにしてこられた成果が講演内容だったことでした。

本記事「奈良のシカ」は、奈良公園とその周辺の、特に春日大社とかかわりの深い集団。

【近世までの奈良のシカの場合／

近世の宮島のシカと人】

奈良では古くから、春日大社の「神鹿」として崇められ、元々は、人が餌を与える「身近な存在」ではない。来訪者との関係や餌やりについて、絵図や、案内文、紀行文等から考える。

宮島では、奈良のように人とシカに緊張関係はなく、市街地にもたくさんうろついている。『巖島図会』のシカが描かれている挿絵が描かれた地点は、島の全域にわたる。

・【近代の奈良のシカの場合／

近代の宮島のシカと人】

明治時代になり、奈良では、農業被害とシカ保護についての試行錯誤。明治期に奈良を訪問した外国人旅行記 52 点のうち、9 割にシカの記述。肯定的な評価。

明治～昭和前期の宮島では、外国人紀行文や写真貼に「シカの餌やり」が象徴的景色。昨年の大鳥居に関する研修にも出てきた Shidmore の写真が再出。

・【戦後の奈良のシカの場合／

戦後の宮島のシカと人】

宮島と奈良、さらに金華山(宮城県)と比較。奈良や他地域のシカについては、あまり詳しくない会員も詳しい会員にとっても、類似点や相違点がわかりやすいように、提示していただきました。



水谷講師講演

《講演の内容》





山脇自然保護官挨拶

## 自主観察会(3) 干潟観察公募観察会下見

日時：7月18日(火) 13:30~15:00

天候：晴れ

行事推進委員：金山 北野 呼坂

参加者：金山 河野 小林(勗) 穂井田

元広 森 呼坂 以上 7名

本番のコースの確認。カニ類を中心にウエーピングなどの確認。他、スナガニ、アラムシロガイの観察等。マテガイ堀は時間の関係で中止とすることに決定。



研修会



(石垣のカニ)



研修会



実験(蒸発による冷却効果)

( 文：松尾 写真：河野 )



( 文：小林(勗) 写真：河野 )

## 包ヶ浦海岸清掃作業・ 焼肉懇親会

日時：7月22日（土）9:30~11:00

天候：晴れ

行事推進委員：種本 長村

参加者：恩田 北野 河野 小林(勲)

小林(み) 佐藤 末原 種本 兎谷

長村 二神 穂井田 増田 舛田

村上(慎) 元広 森 以上 17名

### 包ヶ浦海岸清掃

今日は掃除の日、朝から青空で雨の心配は全くなし。栈橋9時着。利用するタクシーが新しくて遊園地の乗り物みたいにかわいくて驚きました。

包ヶ浦公園の入り口に集まって挨拶して開始。私は行事推進委員で、出席を取りました。17人参加です。会長挨拶、作業予定の説明を聞いて東の浜に移動しました。

ごみ袋と火ばさみを持って浜を歩きます。1.5cm くらいのパイプはきりが無いと分かっているのですが、まずは大物狙いで長めのパイプを探します。でもなかなか見つからないので、小さいのも取ることにして、やっと袋の下3分の1ぐらいたまったところで休憩になりました。

みんな木陰に入って、水分を取ります。晴れて暑いせいか休憩は長めでしっかり休めました。

後半スタート。ごみ袋が重くなってきました。このために自分用の小さいビニル袋を用意してきました。持ち手がついていて楽でした。ハマゴウの茂っているところも、まだそんなに高く立ち上がっていないので探しやすく、ペットボトルを1本見つけることができました。

11時、終了。ごみの山と一緒に記念撮影をしました。ここでボランティアの帽子を忘れたことに気づきました。

吹く風に元気づけられながら、よく頑張ってきたと思います。満足です。



( 文：長村 写真：河野 )

## 焼肉懇親会

日時：7月22日（土）11:20～12:30  
参加者：北野 河野 小林(昴) 小林(み)  
佐藤 末原 種本 二神 穂井田  
増田 舂田 村上(慎) 元広 森  
以上14名

11時に包ヶ浦海岸清掃作業を終了し、木陰のバーベキュー広場へ移動し、待ちに待った焼肉懇親会です。清掃班が11時過ぎに会場に着くと、焼肉準備班によって既に会場設営、火起こしなどの準備が出来ており、後は肉を焼くのみでした。

心地よい風の吹く涼しい木陰で、さっそく皆さん焼肉にかぶりつきました。3kg以上の肉と野菜があつという間になくなりました。本当に美味しい牛肉でした。また、小林(み)会員からキュウリの漬物の差し入れがあり、美味しくいただきました。

今回も牛肉など食材調達には、前会員の島様に今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。今年は島様に焼肉懇親会に参加いただき、皆さんで楽しい時間を過ごしました。

12時30分に終了し、解散しました。その後、猛暑の中棧橋まで歩く人、1時間後のバスを待つ人に分かれて帰路につきました。



(文、写真：河野)

## 公募観察会②干潟観察 (鳥居周辺海浜)

日時：7月30日(日) 12:50～16:00

天候：晴れ

場所：宮島水族館西隣

行事推進委員：金山 北野 呼坂

参加者：岩崎 金山 北野 河野 小林(舅)

小林(み) 末原 二神 穂井田 舛田

元広 森 呼坂 以上 13名

環境省：山脇自然保護官 内山自然保護官

大高下 AR

公募参加者：32名

(年少以上(保護者同伴))

協力：NPO 法人宮島ネットワーク

(アサリ掘りの提供)



アサリ掘り

### ◇アサリ掘り体験

潮の加減で、アサリ掘りを干潟観察会の前に行うことになりました。森会員、穂井田会員と元広会員で先に現場に向かい、準備を行いました(干潟上の牡蠣殻の片付けなど)。現場を提供してくださる NPO 法人宮島ネットワークのご協力あってこそこのアサリ掘り体験です。

まもなくお客様のファミリーが来られました。アサリ掘りの道具は、熊手とカゴです。子どもたちは、アサリ掘りに加えて、カニと遊んだりして楽しんでいるようでした。泥遊びを始めた子どもがいて、ママからは「泥遊びはやめて～」と悲鳴があがっていました。

会員スタッフは、掘ったアサリをお客様のカゴにお分けしました。パパやママは、「ありがとうございますと」言って喜んでおられました。2歳ぐらいの女の子が「見て～」と言ってアサリでいっぱいになったカゴを見せてくれました。

### ◇事前学習会

大元公園休憩所に戻って事前学習会を行いました。熱中症予防のため、小林会員から冷たいお茶が配られます。

呼坂会員によると、地球温暖化の影響でナルトビエイが増えているそうです。アサリが食べられてしまうため、防護ネットを張っていると説明がありました。海岸が埋め立てられて干潟が減っている現状についても説明がありました。

金山会員からは、アサリがミルクの入った水槽を浄化する実験について説明がありました。



干潟生物の説明

## ◇護岸の様子

護岸に移動しました。金山会員と北野会員から、カクベンケイガニの生態について説明がありました。カクベンケイガニたちは、人が近付くと、岩の隙間に上手に隠れてしまいます。子どもたちは、カクベンケイガニを探すことを楽しんでいました。



観察会 (石垣のカニ)

## ◇干潟の様子

干潟の中には所々に海水の流れがあります。子どもたちは、干潟の上より流れの中を歩く方が楽しそうでした。子どものために、石を裏返してカニを探すママの姿も見られました。ケガをすることがないように、舁田会員がしっかり見守っていました。

過去にはアオサが多い年もあったようですが、今年はあまり見られませんでした。

## ◇チゴガニのダンス

比較的軟泥質の干潟では、チゴガニたちに出会いました。繁殖期のため、頭部から腹部にかけて鮮やかな青緑色をしており、白いハサミを振り上げながら体をリズムカルに上下させている様子を見ることができました。近付くと巣穴に隠れてしまうために、少し離れて観察をします。ママは「白いのがピコピコしてますね」と言って楽しそうでした。ハクセンシオマネキも白いハサミでハクセン（白扇）をかざすようなダンスをするのですが、今回は残念ながら少ししか見ることはできませんでした。

## ◇スナガニの観察

スナガニは、砂浜に 30cm 以上の穴を掘り、砂上の有機物や藻類を食べて暮らしています。非常に足が速いです。呼坂会員を子どもたちが座って囲んで、観察が始まります。砂浜の白い砂を少しずつ巣穴の中に入れていきます。杓子で掘り進めると、巣穴の周りは湿って黒っぽいために巣穴の部分だけが白く目立ちます。これを頼りに、時にはスナガニに配慮して手掘りもしながら、掘り進めます。突然、スナガニが現れて、穴の中を素早く移動します。「はやーい！」と子どもたちから驚きの声があがります。あちらこちらで観察が始まりましたが、夢中になる子どもが多くて予定の時間を少しオーバーしてしまいました。



観察会 (スナガニの穴に乾いた白い砂を入れます)



観察会 (スナガニ)

## ◇アラムシロガイの観察

アラムシロガイは、死肉などに集まる干潟の掃除屋さんです。呼坂会員をみんなで囲んで、餌に集まってくるアラムシロガイの様子を観察しました。「触角を左右に動かしてとるじゃろう？」と子どもたちに観察ポイントの説明がありました。干潟はとても暑かったですが、アラムシロガイを中心に、子どもたち、パパ、ママ、自然保護官、会員スタッフ

みんなが一つの輪になって観察した楽しいひとときでした。

周囲では、干潟上を徘徊しているマメコブシガニの姿が比較的多く見られました。円形の甲羅が握った拳の形に似ていることから、この名前が付けました。繁殖期であるため、オスがメスを抱えてガードしている姿が見られたので、私の方で手のひらに乗せて、みんなで観察しました。



観察会（アラムシロガイ）

## ◇観察会の振り返り

最後に、大元公園休憩所で振り返りをしました。

呼坂会員：「スナガニどうだった？」

男の子：「楽しかった！」と元気な声。

呼坂会員：「巣穴の実験も、今度は自分でできるよね。お友達にも教えてあげてね。」

呼坂会員：「アサリを掘ったことある？」

男の子：「初めて！」と元気な声。

呼坂会員：「良かったね。来年もまた来てね。」

呼坂会員と男の子のやりとりから、自分で自然や生き物に関わってみることや、楽しみながら自然観察を持続させていくことの大切さを感じました。

金山会員からは、ミルクで白く濁っていた水槽がアサリによって、すっかり澄んだ状態になった様子が紹介されました。

大変暑い中での干潟観察会でしたが、お客様のファミリーの皆様、環境省の皆様、会員スタッフの皆様におかれては、大変お疲れ様でした。

(参照文献)

2023「干潟の観察テキスト 海辺のいきもの調べと潮干狩り」環境省宮島地区パークボランティアの会。

「干潟生物マップ」（カニ類を中心に）みやじま未来ミーティング資料

2011『瀬戸内圏の干潟生物ハンドブック』香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション編、恒星社厚生閣。

( 文：元広 写真：河野 )

## 厳島神社前海浜清掃作業

日時：8月1日（火）13：00～15：30

天候：晴れ

行事推進委員：猪谷 大林

参加者：大林 恩田 河野 小林(勅) 佐藤

末原 穂井田 増田 森 吉賀

以上 10 名

コロナ禍などで中止となっていましたが、4年ぶりに、猛暑の中干潮時に合わせて神社前海浜清掃を実施しました。当日は管絃祭の2日前で、御座船など準備作業を進んでおり、神社前海浜清掃も管絃祭準備の一環として、厳島神社の職員の方と協働で清掃をしました。

今年もアオサは余りありませんでしたが、社殿横から大鳥居下まで清掃を行いました。熱中症の恐れもあり休憩をこまめにとり、神社の方から頂いた清涼飲料水などで水分補給をしながら、1時間半ほどで作業を無事終了しました。収集したゴミの量はトラックで1台分でした。

最後に、厳島神社のご厚意で本殿前でお祓いを受け、会員を代表して大林会員が玉串奉納をしました。その後、御座船を背に集合写真を撮り、解散しました。

なお、恩田会員から次のような感想がありました。

「暑い。とにかく暑い中、神社前の清掃が始まりました。今回は無事終了しましたが、毎年気温が上がり続ければ、力作業が多い環境整備部の7、8月行事は再考する必要があると思いました。」



清掃（御座船前）



清掃



清掃



休憩



玉串奉納（大林会員が代表して）



( 文 : 河野,恩田 写真 : 河野 )

\*\*\*\*\* 投稿 \*\*\*\*\*

俳句 大林 實

正面に卯波の寄せる能舞台  
 どの路地も海へと下る花蜜柑  
 能舞台下を流るる青葉潮  
 草笛の中に母在り山河あり  
 神の島町家通りを夏燕  
 建具なき千畳閣の涼しさよ  
 汽水池をミヤジマトンボ離れざる

◇ 編集後記 ◇

今年の夏は8年振り試験勉強なしでなにか違う。ちなみにエネ管、ビル官、電験3を取得。代償に目がやられた。線が歪んで見え焦点も合わない。加齢黄斑変性？と思いきや、黄斑上膜との診察結果。画面を見すぎてドライアイで余分な膜が1枚。上膜に皺ができたため。日帰手術でOK。まだ視力1.2なので春頃以降でもよし。しかし、みせん編集は大変。例えば、みせん行事参加者一覧表も歪んで見える始末で編集に一苦勞。皆さん目の酷使にお気を付けください～！（麻生）

瀬戸内海国立公園  
 宮島地区パークボランティアの会  
 事務局：環境省 中国四国地方  
 環境事務所 広島事務所  
 (〒730-0012)  
 広島市中区上八丁堀6番30号  
 広島合同庁舎3号館1階  
 TEL082-223-7450、FAX082-211-0455